



# 序章 道路ストックマネジメント計画とは

## 1 計画の役割及び位置づけ

本市では、道路ストックを効率的、効果的にマネジメントしていくため、「藤沢市道路ストック白書」、「藤沢市道路ストックマネジメント計画」、施設ごとの「個別施設計画」の3部構成（**道路ストックマネジメント関連計画**）により、現状、課題、今後の管理方針及び長寿命化・修繕等の取組等を示していきます。

2019年（平成31年）3月には、現状、今後の方向性をとりまとめた「藤沢市道路ストック白書（以下「白書」という。）」を作成し、公表しています。

本計画は、白書を基に、少子超高齢化の進展、人口減少といった社会経済情勢の変化等を踏まえながら、道路ストックをマネジメントする視点にたち、目標及び各施設の管理方針等を示した総合的な計画としています。

また、本計画では、50年間（2020年度～2069年度）を見据えるとともに、今後10年間に取組むプログラムを示しています。

そして、道路舗装、橋りょう、地下道といった施設ごとの「個別施設計画」を策定し、マネジメントサイクルをまわしていくものとします。

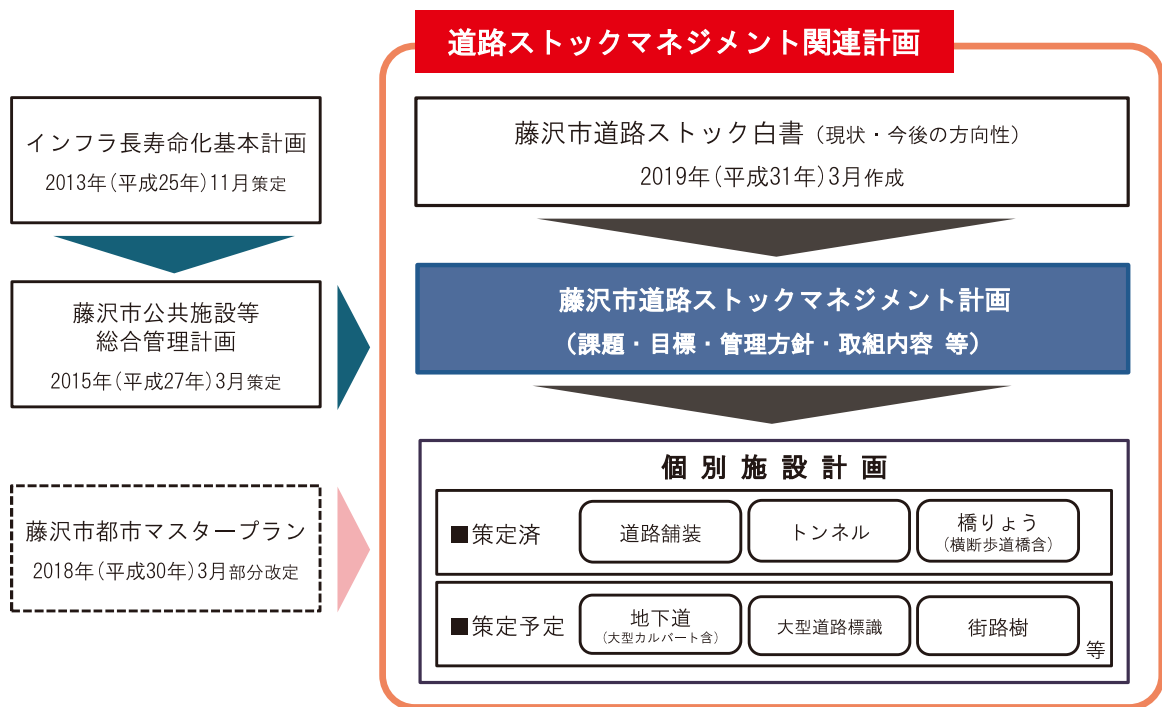


図 1. 道路ストックマネジメント計画の位置づけ

## 2 計画の構成

本計画は、次の構成とします。

### 序章 道路ストック マネジメント計画とは

- 1 計画の役割及び位置づけ
- 2 計画の構成
- 3 藤沢市道路ストック白書の概要

### 第1章 道路ストック マネジメントの対象

- 道路ストック：**モノ**（物的資源）  
 管理体制：**ヒト**（人的資源）  
 管理費：**カネ**（財務資源）  
 情報管理：**情報**（情報資源）

### 第2章 マネジメント対象の現状

#### 1 道路ストック<モノ>

- ・全体の再整備費は約3,585億円
- ・再整備費は「道路舗装」、「橋りょう」、「駅関連施設」が大半
- ・30年後、耐用年数超の施設が約8割に

#### 2 管理体制<ヒト>

- ・短期的な視点による管理(管理運営)  
→維持・修繕等
- ・中長期的な視点による管理(投資)  
→長寿命化、更新、耐震化、  
バリアフリー化等の高質化等
- ・道路ストックの管理に関わる職員は  
104.5名(道路河川部の約9割)

#### 3 管理費<カネ>

- ・短期的な視点による管理費 約17.3億円
- ・中長期的な視点による管理費 約 7.7億円
- ・高質化の費用 約 6.4億円

#### 4 情報管理<情報>

- ・情報管理対象  
→台帳、施設情報、関連計画、交通安全、  
災害等
- ・情報管理ツールは道路台帳GIS
- ・道路ストック情報の電子化は道半ば

### 第3章 道路ストック管理の課題

#### 課題 1 中長期的な管理費の縮減・ 平準化と財政負担の軽減

- ・施設特性に応じた管理方針の明確化
- ・特定財源の確保
- ・時代の要請に応じた取組や激甚化する災害への対応

#### 課題 2 限られた人員・予算の中で のサービスレベルの維持

- ・メンテナンスサイクルの構築
- ・安全性の確保やサービスレベルの維持
- ・新技術の導入によるコスト縮減、  
生産性向上

#### 課題 3 マネジメント体制の構築 と職員のスキルアップ

- ・情報管理体制の充実
- ・職員のスキルアップとマネジメント意識の向上
- ・市民・企業等との連携



## 第4章 目標及び基本方針

### ■ 道路ストックマネジメントの目標

道路ストックマネジメント関連計画に基づき、市民生活を支える道路ストックの安全なサービスレベルの維持を図っていきます。

### ■ 3つの基本方針と12のプログラム

#### 基本方針1 計画的な管理

- 1 施設ごとの管理方針に基づく計画的な管理への転換
- 2 中長期的な視点に基づく管理費の平準化
- 3 社会経済情勢に応じた見直し・改善
- 4 災害に備えた管理

#### 基本方針2 効率的な管理

- 5 新技術の導入等による効率化
- 6 関係機関等との連携による効率化
- 7 契約手法の見直しなど効率化に向けた検討
- 8 職員による直営点検等の充実

#### 基本方針3 持続的な管理

- 9 道路台帳GISを核とした情報管理体制の構築
- 10 道路ストックマネジメント関係職員の育成
- 11 職員のマネジメント意識の醸成
- 12 市民・企業等との連携の拡大

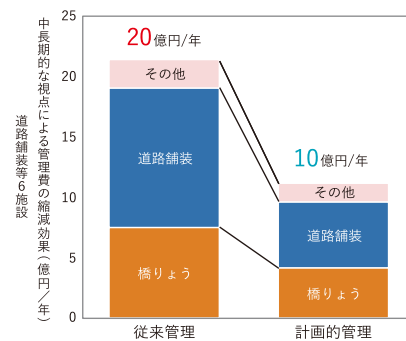
## 第5章 事業計画

- 1 プログラムごとの事業計画
- 2 道路ストックの施設ごとの事業計画

## 第6章 計画の効果

### 1 計画的な管理による効果

今後、老朽化施設が急増し、壊れたら直す従来型の管理では、「中長期的な視点による管理費」が年平均で約20億円に増加が見込まれるが、計画的な管理へ転換することで約10億円に縮減が可能となる。 等



### 2 効率的な管理による効果

一部施設の直営点検により、外注委託費の縮減が可能となる。  
例えば、直営点検が可能な橋りょう(小規模)、カーブミラー等3施設で約1.5億円の縮減が得られる。 等

### 3 持続的な管理による効果

マネジメントを支える意識、体制の構築・強化、「管理に関するノウハウの見える化」、「管理に関する情報公開と説明責任の向上」などが得られる。

## 第7章 道路ストックの施設ごとの管理方針

### 1 道路舗装 ～ 15 駅関連施設

## 第8章 フォローアップ及び計画推進体制



### 3 藤沢市道路ストック白書の概要

白書は、本市の道路ストックの現状と管理に関する取組を整理したうえで、今後の方向性を示しています。

#### (1) 現状・管理の取組のとりまとめ

道路ストックの「現状」及び「管理に関する取組」などを大きく次の4点にとりまとめています。

- 道路ストック再整備費は試算結果から、全体で約3,481億円※となっています。  
耐用年数を迎えた施設ごとに更新を重ねていくことは財政的な面や人的な面からも難しい状況にあります。
- 道路ストックの年間管理費用は約24億2,000万円※となっています。  
あらゆる施設で老朽化が進んでいるため、管理費用は増加傾向となっており、今後、この傾向が加速していくと考えられます。財政状況を考慮すると、より計画的かつ安定的な管理を行っていくことが重要となっていきます。
- 道路ストックの年間管理費用を見ると、「道路舗装」が大きなウェイトを占めており、計画的な管理の実現に向けては、道路舗装の管理がポイントとなります。  
道路舗装は市民要望が多いため、老朽化が進む中、より迅速な対応が求められていきます。
- 道路ストックの管理費用の内訳としては、「短期的な視点による管理」が約70%※、「中長期的な視点による管理」が約30%※となっています。  
道路ストックの老朽化対策の重要度が増していく中、今後は長寿命化関連事業等が増加していくと考えられます。コスト縮減につながる新技術の活用や道路占用企業者等の関係機関との連携という視点も重要となっていきます。

※試算結果等については、2018年(平成30年)4月1日時点

#### (2) 今後の方向性

道路ストックの老朽化が進んでいる中、厳しい財政状況にありながらも、長寿命化等の「中長期的な視点による管理」を計画的に進めていくことが大変重要となります。

このような視点や「現状・管理の取組のとりまとめ」を基に、今後の方向性を4点に整理し、本計画の策定を進めていくとしています。

- 道路ストックの持続可能な管理手法を明らかにしていくこと。
- 道路ストックのメンテナンスの専門知識を有する技術職員を育成していくこと。
- 道路ストックの管理に関する新たな技術(ICTの活用等)を積極的に取り込んでいくこと。
- 道路占用企業者等の関係機関と連携をより一層強化していくこと。

【詳細は、藤沢市ホームページ「[藤沢市道路ストック白書](#)」を参照】